

平成28年度事業報告書

自：平成28年4月1日
至：平成29年3月31日

社会福祉法人尾道のぞみ会

社会福祉法人尾道のぞみ会

【事業報告の概要】

まず入所系事業所については、希望の家はグループホームの拠点を1ヶ所移転させ、定員増を図るとともに、利用者の住環境等をより快適に暮らせるように整備し改善を図った。

瑠璃寮は地域へ送り出す中間施設としての機能を発揮するため、地域生活を見据えた活動を展開し、評価をいただいている。おかげで新規の利用についての問い合わせも多い状況である。

次に通所系事業所については、瑠璃の屋形は一般就労につながった方が2名いらっしゃり、他にも2名の方がトライアル雇用制度を利用して就労中である。やまとは農業が好調で、利用者への工賃支給額も増額することができた。ヴィータは経営状況は厳しい状態が続いているが、相談や利用も増えつつあり、地域に認知されてきたように思われる。

地域生活支援センターるりは相談支援の件数が大幅に増え、相談支援専門員の負担も同様に増えている。特に発達障害の方及び発達障害と思われる方の相談が近年激増しており、今後、どのように対応をしていくかが課題である。

【重点取組と成果】

1) 福祉サービスの質の向上

利用者の人権・権利擁護、虐待防止、リスクマネジメント及び援助技術の向上を図るため、職場内・職場外あるいは海外研修に職員を派遣するなどして、職員の教育に注力した。また、マクロ的な視点も養うために、わが国や広島県の現状及び施策等の情報を、グループウェアの活用により職員に周知し共有を図った。

2) 利用者、家族及び地域のニーズへの柔軟な対応

各事業所には主たる事業内容があり、通常はそれに沿って業務を行っているが、それ以外でも必要とあらば対応する体制をとっている。

講師派遣等も福祉関係機関だけでなく、家族教室や福祉関係以外の行政機関・企業等の勉強会へも講師の要請があり、職員を派遣した。

買い物に困っている地域へは野菜等を持参して販売に伺うなどし、地域の困りごとなどにも対応した。

3) 経営改善

経営改善を図るため、魅力のある環境を整え、利用率80%以上、計画相談件数はヴィータ300件、支援センターるり400件を目標とした。結果としては瑠璃寮(宿泊型生活訓練事業)と希望の家(共同生活援助事業)は目標達成となった。他事業所も達成はならなくとも前年度を上回る利用率で、法人全体として17%収入増となり徐々に経営回復しつつある状況である。

【理事会】 理事総数7人

日時	出席者数	監事の出席	議 題
H28.5.26	5人	有 (2人)	H27年度事業報告、H27年度決算報告、監査報告、地域生活支援センターるり運営規程(特定・一般)の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正、やまと運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正
H28.10.28	6人	有 (1人)	社会福祉法改正に伴う定款変更、評議員選任・解任委員会運営規則の制定、給与規程の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正
H29.3.7	7人	有 (2人)	評議員選任・解任委員会の設置及び委員の選任、評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の招集、固定資産(車両)の処分
H29.3.28	6人	有 (1人)	<p>《報告》定款変更における条文の一部修正及び定款変更認可の状況、尾道市による実地指導監査結果、評議員選任・解任委員会における新評議員の選任結果</p> <p>《議題》理事の選任、H28年度収支補正予算、H29年度事業計画、H29年度収支予算、評議員会運営規程の制定、理事会運営規程の制定、監事監査規程の制定、役員等職務権限規程の制定、就業規則の一部改正、嘱託職員就業規則の一部改正、パートタイマー就業規則の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正、多機能型事業所ヴィータ運営規程の一部改正、瑠璃寮運営規程の一部改正、給与規程の一部改正、嘱託職員給与規程の制定、パートタイマー給与規程の制定</p>

【評議員会】 評議員総数15名

日時	出席者数	監事の出席	議 題
H28.5.26	12人	有 (2人)	H27年度事業報告、H27年度決算報告、監査報告、地域生活支援センターるり運営規程(特定・一般)の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正、やまと運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正
H28.10.28	13人	有 (1人)	社会福祉法改正に伴う定款変更、評議員選任・解任委員会運営規則の制定、給与規程の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正
H29.3.28	13人	有 (1人)	≪報告≫ 定款変更における条文の一部修正及び定款変更認可の状況、尾道市による実地指導監査結果、評議員選任・解任委員会における新評議員の選任結果 ≪議題≫ 理事の選任、H28年度収支補正予算、H29年度事業計画、H29年度収支予算、評議員会運営規程の制定、理事会運営規程の制定、監事監査規程の制定、 、役員等職務権限規程の制定、就業規則の一部改正、嘱託職員就業規則の一部改正、パートタイマー就業規則の一部改正、瑠璃の屋形運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正、多機能型事業所ヴィータ運営規程の一部改正、瑠璃寮運営規程の一部改正、給与規程の一部改正、嘱託職員給与規程の制定、パートタイマー給与規程の制定

【評議員会】 委員3名

日時	出席者数	うち、外部委員の出席	議 題
H29.3.21	3	有	評議員の選任

【人材育成】

職場内研修

- ・新人研修 2名(4/1～4/5 3日間)
- ・事例検討 6名(8/12)
- ・虐待防止、権利擁護研修 38名(10/24)
- ・発達障害への支援について 24名(12/6)
- ・イタリア出張報告会 10名(2/10)

職場外研修

- ・採用に係る人権問題研修会 1名(6/10)
- ・リフレッシュ交流会in御荘 3名(6/18～19)
- ・社会福祉法人制度改革の施行に向けた説明会 1名(7/15)
- ・企業主導型保育事業説明会 2名(8/3)
- ・改正社会福祉法対応研修会 2名(9/12)
- ・社会福祉法人役員研修 1名(9/15)
- ・障害福祉サービス経営セミナー 1名(9/16)
- ・年金委員、健康保険委員合同研修会 1名(11/18)
- ・社会福祉法人制度改革の施行に向けた説明会 1名(12/9)
- ・広島県障害者虐待防止、権利擁護研修 5名(2/2)
- ・年金委員、健康保険委員合同研修会 1名(2/15)
- ・水害、土砂災害への備え等に関する説明会 5名(2/27)
- ・社会福祉法人決算研修 1名(3/16)

【関係機関への協力等】

- ・精神保健福祉交流促進協会 理事、実行委員
- ・広島県精神障害者支援事業所連絡会 役員
- ・広島県相談支援従事者研修等の実施に係る検討会 委員
- ・広島県相談支援体制整備事業アドバイザー連絡会議
- ・広島県相談支援従事者初任者研修 講師
- ・広島県相談支援従事者初任者研修 グループリーダー
- ・広島県相談支援従事者初任者研修演習グループリーダー研修 講師
- ・広島県相談支援従事者現任者研修グループリーダー研修 講師

- ・広島県相談支援従事者現任者研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者フォローアップ研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修グループリーダー研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 グループリーダー
- ・日本精神保健福祉士協会全国大会 分科会座長
- ・広島県PSW協会初任者研修 講師
- ・中四国精神保健福祉士大会愛媛大会 実践報告&シンポジスト
- ・市町協議会事務局連絡会議
- ・尾道こころネットよつば会家族教室 講師
- ・尾道市役所職員研修 講師
- ・JC-NETジョブコーチ養成研修 演習トレーナー
- ・尾道市水道局人権研修 講師
- ・広島県医療観察制度地域連絡協議会
- ・尾道福祉専門学校 講師
- ・中国電力人権研修 講師
- ・尾道市地域自立支援協議会福祉計画部会 委員
- ・尾道市地域自立支援協議会全体会 委員
- ・社会福祉法人あづみの森職場内研修 講師
- ・就労支援基礎セミナー 講師
- ・高知ピア研修会 講師

【福祉サービスに関する苦情等解決】

- ・苦情 1件(地域生活支援センターるり)
- ・内容 相談員の対応について
- ・対応 管理者及び相談員が苦情申立者と話合う

【その他】

① 実地指導監査

- ・7/14 尾道市実地指導監査:地域生活支援センターるり
- ・11/7 尾道市実地指導監査:法人監査
- ・2/10 尾道市実地指導監査:希望の家

② 施設見学者

- ・4/9 香川県あやがわ町より当事者グループ 15名
- ・5/11 ㈱チャレンジドパーソンより 3名
- ・5/31 広島県商工労働課 1名、みどりのまち 1名
- ・12/12 精神保健ボランティア「みらくる会」 15名

瑠璃の屋形

【事業報告の概要】

平成28年度は人員体制が大きく変わり、まずは課題の抽出と改善に取り組んだ。特に近年は当事業所の利用者数が減少傾向であったが、利用者としてしっかり関わり、想いに寄り添い、一般就労を目指す方には企業実習などの就労支援を積極的に行い、必要な時には訪問支援も実施する等サービスの質の向上を図った。結果として、関係機関からも評価をいただき、就労移行支援は4名、就労継続B型は15名の新規利用に繋がった。

赤字が累積していた生産活動については事業内容を一から見直し、無駄を省くなど経営改善を図った。また、地域にも積極的に出向き、買い物に困っている地域には野菜・食料品等の販売を行った。

利用者支援も生産活動もまだ改善途中であるが、少しずつ成果がでてきつつあるので、今後もダイナミックかつ丁寧な事業運営に取り組んでいく。

【重点取組と成果】

1) 就労移行支援事業

障害がある方の“働きたい”という想いに寄り添うため、積極的に一般企業への就労支援を行った。新規利用者は4名であった。3月末時点で1名が一般企業に就職、3名がトライアル雇用等の制度を利用して一般企業にて就労中である。この3名は間もなくトライアル雇用の期間が終了するが、企業の評価も高く、引き続き雇用が継続される見込みである。

課題としては、就労移行支援事業はサービス利用者数が激減していることである。これは全国(一部の都市部を除く)でも同様の傾向である。制度的な課題もあるが、おそらく就労継続A型事業所が激増したことによる影響が大きいと推測される。当面経過は注視していく必要がある。

2) 就労継続支援B型事業

就労継続B型については、リスクマネジメントの観点から11月に定員を30名から24名に減員した。新規利用者数は15名であった。終了者のうち、1名は一般企業に就職となった。利用契約者数(在籍者数)は大きく増えたものの、精神特有の体調の変化などもあり、平均利用者数は微増に留まった。

利用者が作業しやすい居心地の良い環境への改善に努め、利用者の個別の特性や能力を活かせるよう作業内容の見直しも図り、利用者が力をつけることを主眼におき、生活面も含めて支援をした。

工賃支給額については平均月額が約18,000円であった。今後は平均月額20,000円の支給を目標としている。

【利用者の利用状況等】

1) 就労移行支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
開所日数(日)	25	23	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290	24.2
月初在籍者数(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	28	2.3
新規利用者数(人)			1		1				1		1		4	0.3
終了者数(人)			1		1							1	3	0.3
月末在籍者数(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	3	29	2.4
延利用者数(人)	37	31	41	31	33	35	36	18	47	49	78	71	507	42.3
1日平均利用者数(人)	1.5	1.3	1.6	1.2	1.4	1.5	1.4	0.8	2.0	2.1	3.4	2.7	21.0	1.8
利用率(%)	28%	22%	31%	22%	24%	27%	26%	14%	34%	36%	65%	51%		32%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
1	1					1	3

2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	30	30	30	30	30	30	30	24	24	24	24	24	330	27.5
開所日数(日)	25	23	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290	24.2
月初在籍者数(人)	27	27	27	30	32	33	35	36	37	36	38	38	396	33.0
新規利用者数(人)			3	2	1	3	1	3		2			15	1.3
終了者数(人)						1		2	1				4	0.3
月末在籍者数(人)	27	27	30	32	33	35	36	37	36	38	38	38	407	33.9
延利用者数(人)	402	387	451	431	403	422	442	465	427	421	443	465	5159	429.9
1日平均利用者数(人)	16.1	16.8	17.3	17.2	17.5	17.6	17.7	19.4	18.6	18.3	19.3	17.9	213.7	17.8
利用率(%)	61%	56%	68%	62%	58%	64%	64%	88%	77%	76%	92%	84%		71%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
1	1	1			1		4

【生産活動】

1) 食品部

パンについては、ブランド化を図るため天然酵母パンに特化する方向であったが、労務管理やスタッフの意識改革等で準備に時間がかかり、平成28年度中に実施することができなかった。平成29年度は体制の変化もあり、ようやく当初の計画をすすめられる段階となったので、早期に取り組みたい。

惣菜については、4月からお弁当の配食事業を休止し、1月からは食堂の人員体制が変わったことにより、お弁当の製造販売も休止した。かわって食堂は、1月からこれまでの男性客主体のメニューを改め、女性客にも好まれる野菜を中心としたヘルシーなメニューに一新し、その食事とメンバーランチ(利用者の昼食)を惣菜に携わっている利用者とスタッフでつくることとした。味付けも変更し、お客様や利用者からは「美味しくなった」と評判も上々である。

また、食堂のレイアウトを変更し、1人のお客様でも気軽に利用できるような、リラックスした空間づくりをすすめているところである。

まだ収入面では厳しい状況は続いているため、今後はSNSを活用した広報活動等も実施して集客に努めている。

2) 直売市

事業開始当初のような勢いはないが、安心・安全な野菜や食品の販売と、地域に愛されるお店づくりを目指し、高齢化が進んで買い物に困っている地域にも出向いての買い物支援など地域貢献活動を地道に続けた。

また季節毎のイベントや、子どもたちを対象とした「染物体験」などのワークショップを開催し、たくさんの方との交流の機会を設けた。

利用者支援においては、開店前30分間に身だしなみ・言葉づかい・挨拶の練習・開店準備や申し送り等のミーティング時間を設け、将来の一般就労を見据えた支援をした。

お店もお客様が買い物しやすいようにレイアウトの変更を進めている。

今後は、SNSを活用した広報活動、商品アイテムの種類の充実と新規販売先の開拓をすすめていく。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

“働きたい”想いに寄り添うために、職員にはジョブコーチ養成研修や就業支援基礎研修などといった就労支援にかかわる研修を受講させ、スキルアップを図った。

また、近年相談の増えてきた発達障害がある方への適切な支援方法について学ぶ機会をつくり、日頃の関わりに活かした。

実習等も積極的に受け入れ、福祉の仕事の魅力を伝え、次世代の福祉の担い手の養成をした。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・ 精神科リハビリテーション研修 1名(7/20、10/21)
- ・ JC-NETジョブコーチ養成研修 1名(8/3～4、9/20～23)
- ・ 就業支援基礎研修 1名(8/24～25、31)
- ・ 発達障害支援スキルアップ研修(就労) 1名(9/23、28～29)
- ・ 広島県相談支援現任者研修 1名(2/1～2/3)
- ・ 広島県障害者虐待防止・権利擁護研修 1名(2/2)
- ・ 職場内研修:事例検討 3名(8/12)
- ・ 職場内研修:虐待防止・権利擁護研修 9名(10/24)
- ・ 職場内研修:発達障害者への支援について 5名(12/6)
- ・ 職場な研修:イタリア出張報告 3名(2/10)
- ・ 障害者雇用企業向け普及啓発セミナー 1名(2/24)
- ・ 尾道市介護支援専門員連絡協議会研修会 2名(3/21)
- ・ 広島県集団指導研修 1名(3/23)

3) 実習生等受入

- ・ 尾道商業高校(インターンシップ研修) 1名(8/12)
- ・ 長江中学校(職場体験実習) 3名(8/22～8/26)
- ・ 久保中学校(職場体験学習) 1名(8/22～8/26)
- ・ 広島福祉専門学校(精神保健福祉士援助実習) 2名(9/12～9/21、10/17～25)
- ・ 県立広島大学(精神保健福祉士援助実習) 1名(3/13～3/22)

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・ 人権センター「人権のつどい」(6/4)
- ・ 直売市イベント「ひなた市」開催(6/10)
- ・ 直売市ワークショップ「梅ちゃんの草木染め簡単レッスン」開催(7/22)
- ・ おのみち福祉まつり(10/16)
- ・ おのみち市民健康まつり(11/13)
- ・ 直売市イベント「10周年大感謝祭」(11/18)
- ・ むかいしま健康まつり(11/20)
- ・ もちつき(12/22)
- ・ 青山病院との交流会(3/22)

やまと

【事業報告の概要】

就労継続支援事業は、就労継続支援A型・B型事業所の増加に伴い利用者の新規獲得が難しい状況になっている。やまと事業所では、新たにパンフレットを作成し特に北部地域の公共機関や病院・相談支援事業所にパンフレットを置いてもらう等して広報活動に努めた。また、自然豊かな環境を利用して、農業に力を入れネギの水耕栽培、水稻に力を入れた。ネギについては、販路が拡充し収入も伸びてきて工賃をアップすることができた。

【重点取組と成果】

1) 就労継続支援B型事業

重点取組みとして、利用率の増加と工賃アップを目指して事業収入の増加に取り組んだ。新たにやまと事業所独自のパンフレットを作成し、御調町の福祉センターや世羅町の相談支援事業所、湯が丘病院等にパンフレットを置いてもらう等して広報活動を行った。また、定期面接を行ったり、相談支援事業所や訪問看護と連携を行う等して利用者への細かな支援を行うことにより、安定して通所をしていただけるように努めた。北部からの利用者はまだそれほど多くないが、徐々に問い合わせが増えている。利用率は目標の80%には届かなかったが、平成27年度には約50%しかなかった利用率を約70%まで増加することができた。事業収入については、ネギの販路拡充に努め、収入も伸びてきて工賃もアップしている。

【利用者の利用状況等】

1) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20.0
開所日数(日)	25	23	26	25	24	24	25	24	23	23	23	26	291	24.3
月初在籍者数(人)	24	23	24	24	23	24	23	26	24	23	22	23	283	23.6
新規利用者数(人)	1		1	1		1		2				1	7	0.6
終了者数(人)	1		1	1		1		1	1	1		1	8	0.7
月末在籍者数(人)	24	23	24	24	23	24	23	27	23	22	22	23	282	23.5
延利用者数(人)	349	339	331	303	279	278	310	298	313	304	320	347	3771	314.3
1日平均利用者数(人)	14.0	14.7	12.7	12.1	11.6	11.6	12.4	12.4	13.6	13.2	13.9	13.3	155.7	13.0
利用率(%)	79%	74%	75%	66%	61%	63%	67%	68%	68%	66%	80%	75%		70%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
1	3	1	1			2	8

【生産活動】

1) 軽作業

企業からの下請け作業で箱折やシール貼等の作業を行った。初めて作業をされる利用者や立って作業をすることがしんどい利用者が主に関わられていた。ただ、作業収入は少なく工賃アップにはつながらなかった。

2) 食品製造

クッキーやラスク等の自主製品を作成した。原材料の見直しや価格の改定を行ったが、売り上げは伸びなかった。ラスクについては、材料の供給がなくなったこともあり製造を取りやめている。クッキーについては、新商品の試作もしているが製品化には至らなかった。来年度には、新商品を製品化したい。

3) 農業

やまと事業の中心的作業として、水稻・ネギの水耕栽培を行った。様々な場面に利用者に携わっていただけよう、安全に配慮しながら草刈り機等の機械も利用者にも使用していただいた。ネギの水耕栽培は計画的な作付けを行ったが、病気や天候に左右されネギの収穫があまりできない時期があった。しかし、前年度よりも収入は伸びていて、販路も販売量も拡充している。また、尾道市農業協同組合の品評会青ネギの部で一等賞を取り品質も向上している。工賃も前年度に比べアップしている。また、事業所の近隣の畑をお借りして季節の野菜作りにも挑戦した。

4) 所外作業

尾道市、尾道バスより委託を受けて清掃・草刈りを行った。怪我をされる利用者もいなく無事に作業を遂行できた。作業収入も安定しており、利用者の工賃アップにつながった。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

一泊研修旅行を行い、他事業所を見学することにより職員、利用者のモチベーションを高めるとともに利用者同士の関係づくりもすることができた。広島県障害者虐待防止・権利擁護研修に職員を参加させ、研修後に伝達する時間を設けて利用者への虐待防止・権利擁護に努めた。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・ 尾道のぞみ会 虐待防止・権利擁護研修 年2回 延べ職員2名
- ・ やまと一泊研修旅行 愛媛県特定非営利活動法人ハートinハートなんぐん市場 利用者7名 職員3名
- ・ 広島県障害者虐待防止・権利擁護研修 職員1名
- ・ 広島県集団指導者研修 職員1名
- ・ 尾道市自立支援協議会 2ヶ月に1回 延べ職員6名
- ・ 尾道市自立支援協議会 就労支援部会 年4回開催 延べ職員3名

3) 実習生等受入

- ・ 福山平成大学 1名

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・ 4月2日 花見 岩城島
- ・ 5月11日 ボランティア団体コスモスとの交流バーベキュー
- ・ 6月11日 福島ひまわり里親プロジェクト ひまわり種植え
- ・ 6月18日 春のやまと地区住民との交流会
- ・ 7月30日 福島ひまわり里親プロジェクト ひまわり花見
- ・ 8月6日 母子支援センターエスポワールとの交流会
- ・ 8月14日 やまと地区盆踊り大会
- ・ 9月13日～14日 やまと一泊研修旅行 愛媛県 特定非営利活動法人 ハートinハート なんぐん市場
- ・ 10月16日 やまと公民館祭り
- ・ 10月22日 御調健康祭り
- ・ 12月15日 クリスマス会
- ・ 12月22日 餅つき大会
- ・ 1月21日 やまと地区住民との交流会
- ・ 2月3日 節分・豆まき

瑠璃寮

【事業報告の概要】

宿泊型(定員:20名)では、新規利用者15名。前年度は10名であったため5名増という結果であった。その内、利用前の状況が精神科病院に入院中の方がほとんどを占め、退院先として生活訓練を希望される方が依然多くおられる。

サービス終了者は11名。前年度6名に対して5名増。終了後の進路として、グループホーム4名、家族と同居1名、単身生活3名、入院1名、その他2名という内訳であった。尚、入院した1名は一旦利用終了したのち、その後再利用となっている。

利用率では、前年度月平均12.2名(61%)に対し28年度は16.5名(82%)と数字を伸ばすことができ数値目標(80%)を達成できた。

通所型・訪問型(定員:20名)では、新規利用者14名、サービス終了者11名。1日平均7.7名(39%)という結果であった。新規利用者のほとんどは宿泊型利用者であり、純粋に通所型を希望された方は1名のみであった。訪問型と同様に減少傾向にあるため今後の大きな課題である。

短期入所(定員:併設1名、空床2名)については、定期的に利用される方が高齢や不調などで利用が減ったこともあり前年度実利用者数34名に対し28年度は26名と減少傾向である。

【重点取組と成果】

1) 宿泊型生活訓練事業

関係機関(特に医療機関)との連携を重点におき、新規利用者には各かかりつけ医療機関(精神科)へ同行することで連携を強化することができた。公共交通機関を利用することにより、社会性を身に付ける上でもよい生活訓練の機会にもなっている。新規利用者に限らず不調時など状況に応じて電話連絡や同行による相談をするなど柔軟に対応を行った。また、必要な方には訪問看護を活用し再発や再入院の防止に努めた。28年度は5名が利用している。

進路を決める時期や具体的に進めていく際には手厚い支援を行った。特に単身生活へと移行する場合には、不動産会社への同行やそれに伴う手続きや買い物等の支援、さらには利用者の不安や精神的な揺れに対してのフォローを行いながらできるだけ安心して地域移行ができるよう支援を行った。その結果、11名のうち9名が目標としていた進路に進むことができた。

また、日頃の連携を継続してきたことで関係機関からの利用相談が増え、重点課題であった利用率アップにつながることができた。

2) 通所・訪問型生活訓練事業

通所型では、月間活動プログラムを利用者の状況やニーズに応じ、内容の見直しや充実を常時行った。特に公共機関を利用する機会を増やしたことで、事業所内では経験しにくい社会性を身につけることができるため、各利用者のスキルアップにつながっている。

また、グループ活動と並行し個別支援にも対応した。主には、居室の清掃、洗濯、買い物、金銭管理、服薬管理、対人関係や精神的な相談、行政関係の手続き、金融機関への同行、公共交通機関の利用、健康管理に関する支援、身だしなみ等多岐にわたり、各利用者の課題に対して必要な支援を行った。

各利用者の希望や目標達成状況に応じ、通所型から次のステージへとステップアップできるよう段階的に支援を行い、28年度は7名が就労系など別事業所へと移行することができた。

訪問型では、宿泊型から単身生活へと地域移行された方へのフォローアップや家庭の事情により単身生活になった方への生活訓練として訪問支援を行った。28年度はサービス終了者2名とも概ね目標達成し期間満了を迎えることができた。

3) 短期入所事業

定期的に利用される方や家族等の都合により急きょ利用を希望される方などに対し常時受入ができる体制を継続した。

また、より快適に過ごしていただくために併設型の居室(1室)にはテレビや必要最低限の生活用品等を設置、また調理員を新たに配置することで食事面でも満足度が得られるよう環境整備を行った。必要な方には、送迎サービスを行うなどし、利用者や家族から「利用してよかった」「今後も機会があれば利用したい」との感想を頂いている。

【利用者の利用状況等】

1) 宿泊型生活訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20.0
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30.4
月初在籍者数(人)	15	16	17	17	18	18	16	16	15	17	17	18	200	16.7
新規利用者数(人)	3	1	2	1	1	1	1		2	1	1	1	15	1.3
終了者数(人)	2	0	2	0	1	3	1	1	0	1	0	0	11	0.9
月末在籍者数(人)	16	17	17	18	18	16	16	15	17	17	18	19	204	17.0
延利用者数(人)	481	480	507	552	524	527	484	434	477	483	476	582	6007	500.6
1日平均利用者数(人)	16.0	15.5	16.9	17.8	16.9	17.6	15.6	14.5	15.4	15.6	17.0	18.8	197.5	16.5
利用率(%)	80%	77%	85%	89%	85%	88%	78%	72%	77%	78%	85%	94%		82%

サービス終了者の進路

グループホーム	家族と同居	単身生活	入院	その他	合計
4	1	3	1	2	11

2) 通所・訪問型生活訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20.0
開所日数(日)	25	23	26	25	24	24	25	24	27	23	23	26	295	24.6
月初在籍者数(人)	16	16	17	15	15	16	15	13	13	15	16	17	184	15.3
新規利用者数(人)	2	1	2	1	1	1	0	0	2	1	1	2	14	1.2
終了者数(人)	2	0	4	1	0	2	2	0	0	0	0	1	12	1.0
月末在籍者数(人)	16	17	15	15	16	15	13	13	15	16	17	18	186	15.5
延利用者数(人)	191	172	233	199	184	176	190	140	164	200	187	230	2266	188.8
1日平均利用者数(人)	7.6	7.5	9.0	8.0	7.7	7.3	7.6	5.8	6.1	8.7	8.1	8.8	92.2	7.7
利用率(%)	38%	38%	45%	40%	39%	37%	38%	29%	31%	44%	41%	44%		39%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
1	4	2	2	0	2	1	12

3) 短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30.4
実利用者数(人)	4	4	1	2	2	2	3	2	2	1	1	2	26	2.2
延利用者数(人)	19.0	23.0	6.0	10.0	8.0	10.0	10.0	10.0	8.0	6.0	6.0	13.0	129.0	10.8
利用率(%)	63%	74%	20%	32%	26%	33%	32%	33%	26%	19%	21%	42%		35%

【人材育成】

1) 取組内容と成果

日常的に利用者と関わる時間を増やし「利用者から学ぶ」という意識を持ち、まずは実践経験を積むことに重点を置いた。

また、個別対応などで医療機関等に同行し、さらに自立支援協議会等の行政機関が主催する会議や研修会に積極的に出席することで、関係機関と連携や福祉制度について理解を深めることができた。

自立支援協議会生活支援部会では尾道市内の他事業所を見学する取り組みがあり、他事業所の現状や課題を知ることで各職員はもちろん、今後事業展開を検討している瑠璃寮にとっても参考になることが多く、よい学びの機会となった。

海外研修(イタリア視察研修)に瑠璃寮から1名参加し、先進地であるイタリアの精神保健に関する歴史や現状を学ぶことができた。あらためて日本の精神保健福祉を考えるよい機会となり、法人の今度の活動に活かしていきたい。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- 4月27日、尾道ふくしむら連絡協議会役員会出席(1名)
- 6月16日、尾道市自立支援協議会生活支援部会出席(1名)
- 6月22日、尾道市自立支援協議会生活支援部会(事業所見学)参加(1名)
- 6月29日、職場内研修「消防教育(新人職員対象)」実施
- 7月15日、尾道市自立支援協議会生活支援部会(事業所見学)出席(1名)
- 7月21日、尾道市自立支援協議会定例会出席(1名)
- 7月23日、尾道市福祉サービス事業所合同見学会出席(1名)
- 8月12日、職場内研修「事例検討」参加(2名)
- 9月15日、尾道市自立支援協議会定例会出席(1名)
- 9月29日、尾道市自立支援協議会生活支援部会(事業所見学)参加(1名)
- 10月20日、尾道市自立支援協議会生活支援部会参加(1名)
- 10月12日～13日、広島県サービス管理責任者フォローアップ研修参加(1名)
- 10月24日、職場内研修「虐待防止研修」参加(非常勤職員含め8名)
- 11月15日～24日、イタリア視察研修参加(1名)
- 12月6日、職場内研修「発達障害について」参加(3名)
- 1月17日、尾道市自立支援協議会生活支援部会(事業所見学)出席(1名)
- 1月19日、尾道市自立支援協議会定例会出席(1名)
- 2月2日、虐待防止・権利擁護研修参加(1名)
- 2月9日、尾道市自立支援協議会生活支援部会出席(1名)
- 2月10日、職場内研修「イタリア視察研修報告会」参加(2名)
- 2月27日、水害・土砂災害への備え等に関する説明会(広島県主催)出席(1名)
- 3月17日、尾道市自立支援協議会生活支援部会(事業所見学)出席(1名)
- 3月23日、広島県指定障害福祉サービス事業者等集団指導研修出席(1名)
- 3月24日、尾道市自立支援協議会定例会出席(1名)

3) 実習生等受入

- 10月3日～10月24日(16日間)、日本福祉大学(通信制)より受入(1名)

【各種行事、地域との交流事業等】

- 4月27日、レクリエーション「浪漫珈琲へ」実施(利用者7名参加)
- 5月11日、チャレンジドパーソン職員3名による瑠璃寮・希望の家見学受入
- 6月29日、レクリエーション「はま寿司へ」実施(利用者9名参加)
- 7月16日、ソフトボール交流会参加(利用者4名、職員1名)
- 8月31日、レクリエーション「浪漫珈琲へ」実施(利用者7名参加)
- 10月26日、レクリエーション「カラオケ」実施(利用者5名参加)
- 12月5日、障害者週間尾道福祉大会参加(利用者2名、職員1名)
- 12月7日、コスモス主催クリスマス会参加(利用者4名、職員2名)
- 12月22日、法人全体行事「もちつき大会」
- 1月27日、尾道ふくしむら施設連絡協議会新年会出席(1名)
- 2月7日～2月21日、尾道市内福祉事業所作品展・製品展(市民センターむかいしま)へ出展(利用者絵画作品3点)
- 3月27日、瑠璃の屋形・瑠璃寮合同消防訓練実施(利用者18名、職員10名参加)
- 3月22日、青山病院交流会(卓球&カラオケ)参加(利用者4名、職員1名)
- 3月25日、よつば会交流会参加(利用者4名、職員1名)
- 3月29日、レクリエーション「いちご狩り」実施(利用者10名参加)

希望の家

【事業報告の概要】

平成28年5月に、定員3人の番所を老朽化のため廃止し、新しく定員6人のグループホーム「TAKEYA」を追加。番所入居者の3名はTAKEYAへ移って頂く。5月に1名入居、6月に1名入居、10月に1名入居となり、定員に達する。シェアハウスゆいでは、利用者1名が平成28年9月より、精神科へ医療保護入院となり、平成29年2月に退所となる。現在も入院中。他に入院された方は2名。1名は内科的な治療の為、入院を繰り返し、その後、11月より、精神科へ入院。残り1名はご家族の不幸と引越しが重なり、平成28年11月より、精神科へ入院となった。

【重点取組と成果】

1) 共同生活援助事業

個別支援計画をもとに、各利用者さんの目標を達成するように、支援を実施。主治医の指示通りに服薬出来るようになる。継続して通所出来るようになる。当番のホームの掃除やゴミ出し出来るようになる。一人で美容院へ行くことが出来るようになる。朝・夕に巡回を実施し、体調、予定、服薬の確認を実施し、職員間では情報を共有。必要時には通院同行し医療機関や家族と連携実施。入院している利用者の方には、安心して治療に専念できるように支援。現在は回復され退院してホームに戻っている。

【利用者の利用状況等】

1) 共同生活援助事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	13	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	189	15.8
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30.4
月初在籍者数(人)	13	14	15	15	15	15	16	16	16	16	15	15	181	15.1
新規利用者数(人)		1	1				1						3	0.3
終了者数(人)											1		1	0.1
月末在籍者数(人)	13	15	16	15	15	15	17	16	16	16	14	15	183	15.3
延利用者数(人)	374	428	420	441	436	413	452	397	397	394	372	413	4937	411.4
1日平均利用者数(人)	12	14	14	14	14	14	15	13	13	13	13	13	162	13.5
利用率(%)	96%	86%	88%	89%	88%	86%	91%	83%	80%	79%	83%	83%		86%

サービス終了者の進路

他の福祉事業を利用	家族と同居	単身生活	入院	その他	合計
			1		1

【人材育成】

1) 取組内容と成果

職場内研修の虐待防止研修には、職員、世話人、全員参加。利用者との関わりで、虐待行為になっていないか、職員間で確認し、虐待防止につなげている。利用者の方の情報を職員、世話人と共有し、利用者との関わり方に生かしている。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・ 職場内研修「不適切な支援の防止に向けて」参加人数:5名
- ・ 職場内研修「発達障害の特徴と理解について」参加人数:5名
- ・ 「居住系事業所研修」参加人数:1名
- ・ 「水害・土砂災害への備えに関する説明会」参加人数:1名
- ・ 「医療観察法対象者に係る入所支援について」参加人数:1名

3) 実習生等受入

- ・ なし

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・ 各ホームで、シティークリーニング参加。職員1名、各ホーム利用者全員
- ・ 精神保健ボランティアコスモス主催、やまとBBQ 参加者:職員2名 利用者5名
- ・ 精神保健ボランティアコスモス主催、クリスマス会 参加者:職員1名 利用者2名
- ・ 各ホーム、自主避難訓練及、あらゆる災害を想定した講習会 参加者:利用者全員
- ・ 精神障害者支援事業所連絡会の交流会:温泉 参加者:2名

H28年度 地域生活支援センターり 事業報告

【事業報告の概要】

相談支援事業

尾道市より、障害者相談支援事業の委託を受け「尾道市障害者サポートセンターはな・はな」へ職員を2名派遣し、主に精神障がいのある方の相談対応を行った。本年度の集計として、相談者数が674名、相談件数が1682件であった。前年度と比較すると、相談者数86名、相談件数420件増加した。これまで福祉サービスを利用したことがない方や発達障がいに関する相談の増加している傾向があり、相談内容も多様かつ複雑化しており、専門機関と連携した対応が必要なケースが多く、相談対応に多くの時間を要した。あわせて、地域自立支援協議会の運営やその専門部会である生活支援部会の事務局を担当した。地域自立支援協議会や生活支援部会の運営を通じて、多くの地域課題を抽出することができたが、課題解決に向けての方向性が見いだせていない状況があり、地域自立支援協議会の活性化や機能強化を図っていく必要性を感じており、今後も事務局として検討をしていきたい。

指定計画相談支援については、計画相談対象者拡大に努め、109名（内契約終了者10名）と契約するに至った。ただし、対象者の拡大ばかりに焦点があたると、基本相談や地域移行・地域定着支援に時間が取れなくなってしまうたり、計画相談の質の向上を図るための取り組みが疎かになってしまったりするため、計画相談対象者拡大と相談支援の質のバランスの調整をいかに図れるかが、今後の事業運営上の課題であると感じている。

地域活動支援センター I 型事業

登録者は39名（平成28年3月末時点）となった。各種プログラム活動では、パソコン教室やパステルアート教室への参加者が多く、講師を招いたプログラムの人気が高かった。また、パソコン教室やパステルアート教室については、地域の方々にもご利用いただいております。障がい当事者との交流の場、啓発といった効果をもたらした。当事者活動支援については、障がい当事者によるミーティングである「ピア・カウンセリング学習グループ」を開催し、WRAP（元気回復行動プラン）を取り入れ、障がい当事者の相互の経験を分かち合えるプログラムを取り入れた活動を行った。参加者からは概ね好評を得ており、今後も当事者のエンパワメントを図ることに繋がる活動に注力していきたい。精神障がい者の地域移行の一環としては、青山病院との交流会にピアスタッフ派遣し、交流活動を行った。いずれの事業も、これまでの活動の効果と意義を理解してもらい、障がい当事者が主体（主役）になるように活動を推し進めていきたい。

【重点取組と成果】

1) 相談支援事業

- ・平成28年度の目標として400件/年を掲げ、計画相談対象者拡大に努めた。成果として、109名（内契約終了者10名）と契約するに至り、指定計画相談支援事業の請求件数は342件/年となった。目標数値の達成に至らなかったが、前年度数値250件/年に比べ、92件増となった。
- ・尾道市より、障害者相談支援事業の委託を受け「尾道市障害者サポートセンターはな・はな」へ職員を2名派遣しているが、相談対応に多くの時間を要するケースも多く、尾道市にも状況等を報告しながら、マンパワーの充足を図っていただけるようお願いをした。

2) 地域活動支援センター事業

- ・地域活動の拠点が利用しやすい所在地ではないため、平成28年度の重点事項として、事業所を移転し、サービスの充実を図ることとしていたが、利用者の利便さ、設備、経費等に見合う物件がなく、施設の移転には至らなかった。

【利用者の利用状況等】

1) 委託相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	20	20	21	20	19	20	21	20	20	19	19	21	240	20.0
相談者数(人)	56	49	63	51	47	60	50	47	57	64	65	65	674	56.2
相談件数(件)	127	115	142	130	123	174	130	129	125	151	172	164	1682	140.2

相談方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	90	76	98	76	79	106	88	74	77	102	122	114	1102	91.8
訪問	17	21	20	23	19	31	23	29	30	29	19	25	286	23.8
来所	14	5	15	9	12	18	11	15	10	15	21	18	163	13.6
FAX	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.2
メール	2	2	1	13	0	11	4	7	2	0	1	2	45	3.8
同行	4	7	7	7	12	3	4	4	5	5	6	5	69	5.8
その他	0	3	1	2	1	4	0	0	1	0	3	0	15	1.3
個別ケア会議	3	0	2	4	5	4	5	5	3	5	3	3	42	3.5

障害種別(手帳)

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	重複	なし	不明	合計
23	45	443	17	53	73	20	674

相談内容

福祉サービスに関する相談	社会資源に関する相談	社会生活力に関する相談	権利擁護に関する相談	専門機関の紹介・調整	合計
738	477	2354	17	2537	6123

障害支援区分認定調査委託事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
調査件数(件)	2	2	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	8	0.7

計画相談、地域移行・地域定着

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画相談件数(件)	26	29	33	33	26	34	26	28	28	26	29	24	342	28.5
地域移行等件数(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

2) 地域活動支援センター事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	25	23	26	25	24	24	25	24	23	23	23	26	291	24.3
利用契約者数(人)	36	37	37	37	38	39	39	39	38	38	38	39	455	37.9
延利用者数(人)	83	88	92	59	69	87	102	65	69	90	87	129	1020	85.0
1日平均利用者数(人)	3.3	3.8	3.5	2.4	2.9	3.6	4.1	2.7	3.0	3.9	3.8	5.0	42.0	3.5

プログラム内容と参加者数

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
休憩	40	63	67	39	40	53	61	42	34	46	42	92	619
ピア・カウンセリング学習会	4	3	/	/	2	3	3	1	6	5	3	2	32
バンド活動	10	/	4	4	3	3	6	11	4	9	3	4	61
書道サークル	0	0	1	0	0	0	1	1	2	1	1	0	7
絵手紙サークル	3	0	0	1	2	0	0	2	0	1	1	0	10
パソコン教室	8	7	11	5	13	10	10	10	11	16	16	16	133
パステルアート教室	4	2	3	5	4	5	4	5	8	3	3	5	51
カフェまでウォーキング	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	0	0	0
茶話会	2	0	8	0	5	8	1	7	1	3	0	7	42
青山病院交流会	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	1
ソフトボール交流会	/	/	/	6	/	/	/	/	/	/	/	/	6
クリスマス会	/	/	/	/	/	/	/	/	3	/	/	/	3

【人材育成】

1) 取組内容と成果

- ・広島県相談支援従事者研修にグループリーダーとして職員を派遣した。グループリーダーの立場を経験することで、ファシリテーションやスーパーバイズ等の学びが得られ、相談支援専門員としてのスキルアップに繋がられた。
- ・尾道市健康推進課が主催するひきこもり研修「コミュニケーションの難しさを抱える人の理解と支援」に参加した。ひきこもりの支援についての基本的な理解や支援方法、支援の現状等を学ぶ機会となった。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・H28年度精神保健福祉職員事例検討会(8/8)
- ・H28年度広島県相談支援従事者初任者研修(8/17,18, 19) ※グループリーダーとして職員を派遣
- ・H28年度精神保健福祉職員研修(8/23)
- ・日本相談支援専門員協会 第2回中国ブロック研修(12/3)
- ・H28年度広島県障害者虐待防止・権利擁護研修(2/2)
- ・地域生活支援システムの構築・整備に係る事例研修会(3/9)

3) 実習生等受入

次世代の精神保健福祉従事者の養成は、今後の福祉業界の重要な課題でもあり、当センターでも実習生の受入を行っていたが、今年度については、業務上の都合により、実習生を受け入れることができなかった。

【各種行事、地域との交流事業等】

地域の方々との交流を図る目的で、プログラムの一部を開放した。地域の方々の来所は、延べ81名となった。障がい当事者と一緒に参加することで啓発に繋がった。

ヴェータ

【事業報告の概要】

平成28年度は人事異動に伴い、これまで当事業所が大事にしてきた『当事者が力をつける』『当事者主体』『当事者のストレングス(強み)』といった視点をもって事業に取り組んでいく姿勢は変わらないが、経営方針をより意識した適材適所の関わり(動き)が多くなった。その結果、平成27年度と比較し57%経営が回復をしている。

しかし一方で、職員一人一人が複数事業所の兼務を行っているため、本業である障害福祉サービス活動とサービス活動外のパワーバランスの在り方について幾度と協議を重ねた一年であり、継続的な課題として見直すべき事案が各事業所に生じている。

【重点取組と成果】

1) 相談支援事業

人事異動に伴い、相談支援事業を初めて行う職員が着任した。そのため、『指定特定相談支援事業』とは」という観点から現行を精査し、平成28年度の経営方針に沿った形で事業が展開された。結果、平成27年度と比較し、平成28年度は、計画相談件数をはじめ基本相談内容に大きな変化が生じている。

例えば、計画相談については、平成27年度66件に対し、平成28年度は166件と実績をあげている。定期的な面談を重ね、必要に応じて同行支援を実施し、関係構築に努めた。平成28年度より、提出する書類が簡易的な様式から複雑化し、書類作成から提出までに倍以上の時間を要する状況となった。しかし、時間を要する分、一連の動きの中で対象者が主体的に自身の生活を考え幸福追求が行えるような支援を実施した。

また、基本相談内容については、『指定特定相談支援事業所』としての動きに重点をおき、適材適所の支援に努めた。結果、『社会資源に関する相談』『権利擁護に関する相談』『専門機関の紹介・調整』については、基幹相談支援センターや弁護士事務所との連携を強化した。

2) 通所・訪問型生活訓練事業

人事異動に伴い、職員一人一人が複数事業の兼務を行いながら障害福祉サービス活動とサービス活動外のパワーバランスの在り方、整備面における課題から生じる利用者の受け入れの在り方について精査し、協議を重ねた一年であった。

利用者受け入れの在り方については、対象者を障害福祉サービスのみをご利用されている方に止まることなく介護保険を利用しながらも訓練を希望される方に対しても受け入れるように努めた。結果、相談支援事業所からの紹介のみならず、介護保険事業所や医療機関からのご紹介が増えた。ただ、職員が兼務している状況にあるため、訪問型生活訓練をご希望される方に対しては、全てのご要望にお応えすることが出来ない・設備上の課題から天候に応じて通所利用のお断りをするという状況が生じている。

また、課題という点においては、事業所内に入浴設備がないため、入浴に課題のある方に対する訓練については、通所型では対応が難しい。訪問型となると、入浴に係る一連の動きの訓練を行うには時間を要すること・入浴以外の訓練を希望されているという状況があるため、実際には取り組みが出来ていない。

3) 就労継続支援B型事業

人事異動に伴い、職員一人一人が複数事業の兼務を行いながら障害福祉サービス活動とサービス活動外のパワーバランスの在り方について精査し、協議を重ねた一年であった。

利用者への作業提供時には、『当事者が主体』『当事者が力をつける』『当事者のストレングス(強み)』といった視点をもって支援を実施した。作業内容によっては、創意工夫に努め、利用者の方へ作業提供を行った。このことで、他法人の同事業を併用利用されている利用者からはご好評いただき、定期的な継続利用に繋がっている。ただ、利用者お一人お一人が携われるように創意工夫を行うことで作業が細分化され、対応職員のマンパワー不足という課題が生じている(要因の一つとして、職員が兼務対応していることが挙げられる)。

課題という点においては、工賃一月当たりの平均金額が3000円以上に到達しない点が挙げられる。自主製品取扱店の開拓や下請け作業の開拓に取り組むものの成果として工賃に大きく結びつくような状況に至らなかった。今後は、『目標工賃達成指導員配置』を検討し、目標工賃が達成出来るよう継続的な努力が必要である。

その他、生活訓練事業・就労継続支援B型事業で共通していることとして、男性職員が常駐していないため、利用者間のトラブルにおいて制止が必要となる場面や地域住民とのトラブル(脅迫を受ける、タバコを投げつけられる等)対応に女性職員のみで対処するには限界があり、課題が残った(地域の駐在所や行政には相談済み。防犯カメラを設置する)。

生活訓練事業においては、一連の事案が要因となり、通所利用の回数が減少した方や入院治療に専念するようになった方もおられる。通所利用が難しくなった方に対しては、電話による様子伺いや訪問を実施したが、利用終了を希望される方が2名おられた。

就労継続B型事業においては、一連の事案が要因となり、通所利用の回数が減少した方や通所されてもその方のお姿を拝見することで恐怖心が強まり作業に集中出来ず、事業所内で静養を必要とする状況が継続した。通所利用の回数が減少した方に対しては、一般就労を見据えた上で作業提供方法に工夫を行った。

【利用者の利用状況等】

1) 相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	20	19	21	20	20	20	20	20	19	19	20	22	240	20.0
相談者数(人)	26	31	35	28	31	28	24	31	24	27	22	32	339	28.3
相談件数(件)	79	90	88	66	57	60	59	58	75	160	152	181	1125	93.8

相談方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	48	54	50	35	39	28	28	40	46	117	111	133	729	60.75
訪問	18	18	23	13	10	17	14	15	12	27	28	26	221	18.41
来所	7	15	14	18	8	13	14	10	5	9	5	11	129	10.75
FAX	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0.25
メール	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	1	7	0.58
同行	5	0	1	0	0	2	3	3	11	6	5	10	46	3.83
その他	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.16
個別ケア会議	2	5	9	6	2	4	4	2	2	4	2	6	48	4.0

障害種別(手帳)

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	重複	なし	不明	合計
2	4	40	5	2	5	1	59

相談内容

福祉サービスに関する相談	社会資源に関する相談	社会生活力に関する相談	権利擁護に関する相談	専門機関の紹介・調整	その他	合計
792	76	185	7	94	0	1154

障害支援区分認定調査委託事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
調査件数(件)	0	6	3	2	2	2	1	0	2	5	4	2	29	2.41

計画相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画相談件数(件)	3	9	17	15	13	14	14	16	15	15	15	20	166	13.8

2) 通所・訪問型生活訓練事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
開所日数(日)	21	19	21	20	20	20	20	21	19	19	20	22	242	20.2
月初在籍者数(人)	12	11	11	10	8	8	9	8	8	8	6	6	105	8.8
新規利用者数(人)	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5	0.4
終了者数(人)	1	0	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	8	0.7
月末在籍者数(人)	11	11	10	8	8	9	9	8	8	6	6	8	102	8.5
延利用者数(人)	87	77	113	90	84	103	81	71	51	29	32	72	890	74.2
1日平均利用者数(人)	4.1	4.1	5.4	4.5	4.2	5.2	4.1	3.4	2.7	1.5	1.6	3.3	43.9	3.7
利用率(%)	66%	56%	86%	65%	61%	78%	59%	54%	37%	21%	27%	52%	55%	55%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
0	4	2	1	5	1	2	15

2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
開所日数(日)	21	19	21	20	20	20	20	21	19	19	20	22	242	20.2
月初在籍者数(人)	3	3	4	6	8	9	9	9	10	9	10	9	89	7.4
新規利用者数(人)	0	2	2	2	1	0	0	1	0	1	0	0	9	0.8
終了者数(人)	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0.3
月末在籍者数(人)	3	4	6	8	9	9	9	10	9	10	9	9	95	7.9
延利用者数(人)	26	32	52	63	67	59	68	79	67	52	72	76	713	59.4
1日平均利用者数(人)	1.2	1.7	2.5	3.2	3.4	3.0	3.4	3.8	3.5	2.7	3.6	3.5	35.3	2.9
利用率(%)	8%	10%	17%	20%	21%	19%	21%	26%	21%	16%	26%	24%	19%	19%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
0	1	2	0	1	0	0	4

【生産活動】

1) 雑貨

平成28年度事業計画作成時には、『廃油石鹼について、最低17万円の収入を見込んでいる。』と計上した。実際には、廃油石鹼のみでの収入は見込めず、他の雑貨製品を試行錯誤しながら販売を行った。結果、目標数値には達成しなかったが、平成27年度よりは大幅に計上することが出来た。

また、自主製品を販売すべく、委託販売先の開拓にも努めた。結果、4店舗新規獲得している。店舗への納品については、利用者の方にも一緒に行き、その中で他社製品も見ながら共に商品開発に取り組んだ。共に行うことで意欲向上にもつながった。

生産活動については、サービス活動外の動きとなる。現在担っている職員は、障害福祉サービス等以外の営利企業で経験がないため、独学で工夫をしているが、適正な知識を含むスキルアップが必要である。並行して自主製品の質の向上に努め、収入を増やす取り組みが求められる。これらの事を踏まえ、今後は、『目標工賃達成指導員配置』を検討し、目標工賃が達成出来るよう継続的な努力が必要である。

2) 業務委託

業務委託には、『清掃』『洗車』『代行業務』の3種類がある。

『清掃』については、契約を更新していただけるよう質の向上に努めた。

『洗車』は、平成28年度より委託を頂き高齢者の事業所にて実施している。その様子を見られた近隣の方からもご依頼を頂くなど、活動の場が広がってきている。今後も質の向上を図り、顧客満足度が高まるよう努める。

『代行業務』は、幅広く広報活動を行った結果、関係事業所を介さず直接地域の方からご依頼を頂くことが増えている。そのため、ご依頼内容に応じて対応していただく利用者との日程調整を行うことが増えてきた。今後も幅広く広報活動を行い、柔軟に対応出来るよう努める。

3) 下請け作業

利用者が『作業項目の選択』を行うことが出来るよう、地域企業から下請け作業が頂けるよう努めた。このたび、『クロネコDM便お仕事説明会』や『広島こだわり食材展示交流会』に参加をした。前者とは作業につなげることが出来なかった。しかし、後者の交流会で因島・瀬戸田地域の企業とご縁があり、作業提供の折衝に結びついた。また、瑠璃の屋形直売市での協力農家としてもご検討くださることとなった。平成28年度中の工賃に直接反映はされなかったが、平成29年度へと繋がる動きとなった。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

平成28年度は、先進事業所や先駆的なことをしている企業等への視察・見学を利用者と共に行った。視察前後には、学びたいこと・学んだことの振り返りを共に行った。結果、事業所利用の在り方・姿勢についても意識が変わり、一般就労に向けて必要なことを視覚化し取り組むことが出来た。

その他、日々の利用者とのかかわりから、因島・瀬戸田地域のニーズについて、各部会へ発信することが出来た。まだ、社会資源の獲得までには至っていないため、引き続き社会資源の獲得に努める。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・4月22日、平成28年度広島県障害支援区分認定調査員研修(初任者研修):2名
- ・6月21日～22日、広島県強度行動障害支援者養成研修(基礎):1名
- ・7月6日、県立広島大学作業療学科(講師派遣):職員1名
- ・7月14日～15日、広島県強度行動障害支援者養成研修(実践):1名
- ・8月22日、平成28年度障害支援区分認定調査員研修(現任研修):1名
- ・10月13日、CXカーゴ見学:利用者8名、職員3名
- ・10月14日、アンパツ見学:利用者9名、職員4名
- ・10月24日、法人内研修(障害者虐待防止・権利擁護研修):4名
- ・11月24日、視察(社会福祉法人つつじ):利用者6名、職員4名
- ・12月6日、法人内研修(発達障害研修):4名
- ・2月2日、平成28年度広島県障害者虐待防止・権利擁護研修:1名
- ・2月2日、尾三圏域研修:1名
- ・2月20日、クロネコDM便お仕事説明会:1名
- ・2月24日、「広島こだわり食材展示交流会」:1名
- ・2月24日、就労支援部会主催講演会:利用者4名、職員2名、実習生1名
- ・2月27日、広島県水害・土砂災害への備え等に関する説明会:1名
- ・3月9日、ハローワーク:利用者5名、職員3名
- ・3月23日、平成28年度指定障害福祉サービス事業者等集団指導研修:1名

3) 実習生等受入

- ・5月17日、広島県立大学・精神保健福祉援助実習に伴う三者会議:実習生1名、教職員1名、職員1名
- ・8月17日、県立広島大学精神保健福祉援助実習前訪問:実習生1名、職員1名
- ・9月5日～16日、県立広島大学精神保健福祉援助実習(火曜日を除く8日間/9月8日・14日、実習巡回訪問有)
- ・11月14日、県立広島大学実習協議会・実習報告会:1名
- ・1月19日、県立広島大学・精神保健福祉援助実習に伴う三者会議:実習生1名、教職員1名、職員1名
- ・2月20日～3月3日、県立広島大学精神保健福祉援助実習(火曜日を除く8日間/2月24日・3月2日、実習巡回訪問有)

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・4月17日、グラウンドdeマルシェ(自主製品販売実施):利用者2名、職員2名
- ・7月7日、『そよ風のつどい』より見学7名
- ・7月20日、合同事業所説明会:職員1名
- ・8月20日、ひだまり夏祭り(自主製品販売実施):職員2名
- ・9月16日、ふれあい合同面接会:利用者8名、職員3名、実習生1名
- ・10月16日、おのみち福祉まつり(自主製品販売実施):職員1名
- ・10月29日、重井公民館祭(自主製品販売実施):職員2名
- ・11月12日、浮城祭(自主製品販売実施):利用者3名、職員1名
- ・11月18日、瑠璃の屋形直売市感謝祭(自主製品販売実施):利用者4名、職員1名
- ・11月20日、学校まるごとマルシェ(自主製品販売実施):職員2名
- ・12月7日、精神保健福祉ボランティアコスモス主催クリスマス会:利用者6名、職員2名
- ・12月8日、ケアホームひだまり移転・見学会:利用者8名、職員5名
- ・12月14日、あいサポートアート展観覧(ヴィータより1名入選):利用者10名、職員3名
- ・12月22日、もちつき:利用者6名、職員2名
- ・2月1日～24日、尾道市内福祉事業所作品展出店
- ・2月7日、尾道特別支援学校高等部「企業・施設の参観日」:職員1名
- ・2月21日、尾道支援学校しまなみ分校高等部「企業・施設の参観日」:職員2名
- ・3月21日、利用者胸部検診:利用者2名
- ・3月22日、青山病院交流会:利用者4名、職員3名
- ・地域自立支援協議会(年6回):職員1名
- ・相談支援部会(年6回):職員1名/相談支援部会から派生したワーキング部会(年8回):職員1名
- ・生活支援部会(年3回):職員1名/生活支援部会における事業所見学(2回参加):職員3名
- ・就労支援部会(年4回):職員1名
- ・日本財団(障害者の就労に係る係る車両整備助成)、生協ひろしま(活動支援のための助成金)に申請するも落選。